

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年 8月 20日

氏名 (フリガナ)	松根佑典 (マツネユウスケ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2018年8月13日 (月) ~ 8月18日 (土)
大学名	昭和大学
学年	5年

本研修では英語による症例報告の表現方法やハワイ大学の先生方の特別講義など日頃は学ぶ事のできない医療英語の技法に関して実地的な内容を学習することができた。また懇親会や休憩時間のアラモアナ散策等、引率の先生方や他大学の学生と交流する時間を十分に得ることができた。プログラムの内容としては非常に満足のいくものであり、機会をいただいたすべての方に感謝申し上げたい。

一番勉強になったのは日頃から都内の医学英語の団体で学んでいた症候学や症例報告の表現をしっかりとアウトプットできたことである。私は本研修に参加する際に予習しておいたのでネイティブの講義にもなんとかついていくことができた。やはり私の英語力では正直、英語の講義や討論をすべて理解することは難しい。したがって内容を予習しある程度理解しておかねば折角の機会を無駄にしかねないのである。いくつか型となる文章を講義で習い、ハワイの医学生を患者に見立てて相手に問診をとり、講師のところに行って所見を説明するというサイクルを3日間繰り返した。継続と反復は初学者にとり最も大切な学習であるが今回はまさしくそれを実践することができた。

また今回は外科系医師の実地に基づいた話を聞ける機会を得たのも貴重であった。私は将来消化器外科医になろうと思っている。しかし今の所このような勉強会では内科系、それも総合内科や家庭医の医師が講師となることが多いと思われる。総合診療の勉強はもれなく所見を取り、基本的な診断学を学ぶことができるため大変有意義であることは承知している。ただし将来的な展望や具体的なアドバイスを得るにはすこし物足りない気がしていたところであった。本研修を通し、ハワイ大学の町先生や引率にこられた東海大学の鍋島先生の体験を聞くことができとても参考になった。正直なところ消化器外科の分野でアメリカに臨床留学するということはあまり現実的ではないらしい。日本での研修システムや充実しているのも、日本の市中病院で外科専門医を目指して勉強すれば大概のことは習得できるそうだ。しかしこれまで医学英語の勉強をしてきてぜひとも留学の機会を得たいと考えているので、ニューヨークやボストンの大学や研究所でリサーチフェローなどの形が許されれば応募したい。将来は病理病態に基づく診断と治療を目指しているものでぜひしっかり学んで今後の医療に役立つ人材となれるよう努力したい。

これまで私は海外にあまりでることはなかった。旅行ですら日本国内ばかりであった。医学部2年のころにカリフォルニアのUCLAに行ったきりそれ以外の渡航経験は一切ない状態であった。しかし今回の研修グループは非常に皆友好的であり、勉強熱心な優れた学生ばかりであったから全く心配することがなかった。各々物事に対して高い見識を持ち、医学や英語においての学力のみならず協調性やコミュニケーション能力もまた高い学生ばかりだった。さらに模擬患者として参加したハワイ大学の学生も優しく様々なことを教えてもらった。途中の自由時間でアラモアナのビーチやショッピングセンターに行き観光巡りをすることができたのも大変良い思い出である。いままでテレビやインターネットでしか見たことのないホノルルの街並みやダイヤモンドヘッドなどの自然風景を楽しむことができた。次回はより時間をかけて海沿いの名所を見て回り海に入ったりもしてみたいと感じた。ハワイ大学の教授でハワイの民間医療を研究している先生がいたが、その先生の講義でもあったように文化や歴史を学ぶことはコミュニケーションの基本である。われわれ医学部の学生はやたらと試験や実習に追われ、このような幅広い教養に基づいた思考を忘れがちである。日々の喧騒をはなれ、海辺を一人思索にふけりながら散策する時間などは海外でなければなかなか得られないであろう。とてもありがたい時間であった。

最後になるが3日間の実習で各段に英語力が上がるとか医学に知識が深まることはないと思う。しかし、この度の経験で学んだ医学英語表現の型や他大学の学生とのネットワークを通し今後もしっかりと勉強に励みたい。臨床実習でも海外に行くことを考えているので今回学んだことを活かしより自らの見識を深めたいと考えている。本研修はそのスタートである。今後の研鑽を通し、国際的に活躍のできる消化器外科医となることを目指したい。